RIVER

2024年３月期 第２四半期　決算説明会

2023年12月13日

リバーエレテック株式会社

（東証スタンダード 証券コード6666）

アジェンダ

❶

2024年３月期 第２Q決算概要

執行役員総務本部長　天野　伸幸

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

2024年３月期 ２Q実績サマリー

（百万円）	23/3期_2Q（前年同期）	**24/3期_2Q（当期累計）**	YoY増減（前年同期比）	24/3期_1Q（前四半期）	**24/3期_2Q（当四半期）**	QoQ増減（前四半期比）
売上高	4,032	**2,795**	-1,236 -30.7%	1,221	**1,574**	+352 +28.9%
営業利益	765	**8**	-756 -98.8%	△32	**40**	+73 —
営業利益率	19.0%	**0.3%**	-18.7pt	△2.6%	**2.6%**	+5.2pt
経常利益	856	**38**	-818 -95.5%	△26	**64**	+91 —
親会社株主に帰属する四半期純利益	727	**△107**	-835 —	△17	**△89**	-71 —
EPS	84.35円	**△12.61円**		△2.09円	**△10.64円**	
為替レート（USD/JPY）	136.68円	**144.99円**		133.53円	**144.99円**	

対前年同期比で減収減益

☞ 売上高
スマートフォンやIoT機器など、在庫調整の長期化など、電子部品市場が弱含みで推移。

前四半期ベースでは回復傾向

☞ 営業利益
受注減による減収の影響が大きい。

☞ 四半期純利益
繰延税金資産の取り崩しの影響。

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

売上高は、前年同期比30.7%減も底打ちの兆し

☞ 地域、用途ごとに回復度合いにばらつきがみられるものの、需要は緩やかな回復傾向。

累　計

会計期間

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

営業利益は、為替の円安効果があったものの大幅減益

☞ 在庫調整の長期化による受注減少と需給緩和による市場競争の激化により大幅減益。

☞ 前四半期比ではスマートフォンの新機種立ち上げもあり73百万円の増益。

累　計

会計期間

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

産業機器（無線モジュール）、スマートフォン、民生機器（PC等）向けが大幅減収

☞ 新機種向けの取り込みによりスマホ向けは四半期ベースでは増加傾向。

☞ 無線モジュール向けは、VR向けや中国、台湾向けの販売が不調。

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

営業利益増減要因（対前年同期）

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

営業利益増減要因（対前四半期）

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

海外売上高は、前年同期比△835百万円（△25.6%）

☞ 四半期ベースでは台湾向けは復調傾向。

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

貸借対照表

資産の部

（百万円）	23/3 期	24/3 期_2Q	対前期末増減
流動資産	6,029	**6,304**	+274
現金及び預金	2,528	**2,762**	+234
受取手形及び売掛金	1,075	**1,367**	+291
棚卸資産	1,960	**1,933**	△26
その他	465	**240**	△225
固定資産	4,096	**3,958**	△137
有形固定資産	3,770	**3,736**	△34
機械装置及び運搬具	2,001	**1,863**	△137
建設仮勘定	597	**681**	+83
その他	1,170	**1,190**	+19
無形固定資産	14	**13**	△0
投資その他の資産	311	**209**	△102
資産合計	10,125	**10,262**	+137

負債及び純資産の部

（百万円）	23/3 期	24/3 期_2Q	対前期末増減
流動負債	2,839	**3,050**	+211
支払手形及び買掛金	229	**258**	+28
借入金	1,702	**2,031**	+328
設備関係支払手形	290	**178**	△112
その他	616	**582**	△33
固定負債	2,481	**2,688**	+207
借入金	1,972	**2,155**	+183
その他	508	**533**	+24
負債合計	5,320	**5,739**	+418
資本金及び資本剰余金	2,325	**2,325**	―
利益剰余金	2,412	**2,236**	△176
その他	67	**△37**	△105
純資産合計	4,805	**4,523**	△281
負債純資産合計	10,125	**10,262**	+137

自己資本比率	47.5%	**44.1%**	△3.5pt
D/E レシオ	0.76	**0.93**	

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

キャッシュ・フロー

（百万円）	23/3 期_2Q	**24/3 期_2Q**	YoY（前年同期比）
営業活動によるCF	1,052	**379**	△672
投資活動によるCF	△487	**△471**	+15
投資活動によるCF	△214	**180**	+394
現金及び同等物による換算差額	137	**89**	△48
現金及び同等物残高	1,796	**2,004**	+207
フリーキャッシュ・フロー	564	**△92**	△656
税金等調整前純利益	864	**35**	△829
減価償却費	276	**271**	△5
有形固定資産の取得	△470	**△430**	+40

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

設備投資は一部先送り

設備投資

23/3期 2Q	24/3期 2Q	増減率	増減率
528	**231**	△297	△56.2%

減価償却費

23/3期 2Q	24/3期 2Q	増減率	増減率
276	**271**	△5	△1.8%

研究開発費

23/3期 2Q	24/3期 2Q	増減率	増減率
161	**121**	△40	△25.0%

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

アジェンダ
❷

2024年３月期 通期業績見通し

代表取締役社長　萩原　義久

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

通期予測に変更なし

（百万円）	23/3期 通期実績	24/3期 通期予想	YoY（前年同期比）	
			増減	増減率
売上高	6,855	**6,297**	△558	△8.2%
営業利益	1,125	**345**	△779	△69.3%
営業利益率	16.4%	**5.5%**	△10.9pt	
経常利益	1,203	**300**	△902	△75.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	893	**359**	△534	△59.7%
EPS	103.59円	**42.99円**		
為替	132.70円	**140.00円**		

- ☞ 在庫調整の終了が期初の見込みより長引いているほか、中国経済の回復も遅れ気味。
- ☞ RIVER ELECTRONICS IPOH（抵抗器事業）の清算による当期の影響について精査中。
- ☞ 前提為替レートを１ドル＝130円から140円に変更。

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

成長分野への積極投資は継続 / KoTカットデバイス向けの研究開発費が増加

設備投資

23/3 期	24/3 期予測	増減率	増減率
1,010	**603**	△407	△40.3%

減価償却費

23/3 期	24/3 期予測	増減率	増減率
574	**570**	△4	△0.7%

研究開発費

23/3 期	24/3 期予測	増減率	増減率
288	**319**	+31	+10.8%

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

適切な資源配分で持続的な成長を目指す

☞ 24/3期中間配当５円。
☞ 配当予想の修正はなし（年間10円（中間5円、期末5円））。

株主還元に関する基本方針

長期安定的な企業価値向上によって、株主への安定的な配当を継続的に行う

＋

連結業績及び配当性向等を総合的に勘案した利益還元

配当性向は連結当期純利益の20%を目安

経営の重要課題

成長力強化を目的とする研究開発・生産設備投資や健全な財務体制を維持するため内部留保の充実

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

アジェンダ

❸

今後の取り組みについて

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

IoTデバイス市場の高成長に対してスマートフォン市場は成熟化が進む

世界のIoTデバイス数の推移及び予測

2022年に324億台だった**IoTデバイス**は、2025年までに440億台に達する見通し。（2022-2025の年平均成長率は**10.7**%。）

（出所：情報通信白書　令和５年版）

世界のスマートフォンの出荷台数推移と予測

世界の**スマートフォン**出荷台数は低水準で推移する見通し。2022-2030の年平均成長率は**3.2**%。

（出所：情報通信白書　令和５年版（2022年はIDC調べ））

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

半導体市場は、短期的には足踏み状態にあるが中長期の成長トレンドは不変

世界の半導体市場

デジタル化や脱炭素化を背景に、高い成長が期待される。
（出所：2021年６月　経済産業省　半導体・デジタル産業戦略）

当社水晶製品アプリケーション別売上高

半導体のボリュームゾーンの流れと同様に今後は重点領域を
IoTデバイス、注力領域を医療・ヘルスケア、車載関連として
事業展開を図る

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

技術トレンドは小型化、高周波、低消費電力、高精度、高信頼性

IoTデバイス **440**億台

2022年に324億台だったIoTデバイスは、2025年までに440億台に達する見通し。
（出所：情報通信白書　令和５年版）

LPWA

特　長

低電力・低ビットレート・広域カバレッジ・ローコスト

LPWAはデータの伝送速度が遅い代わりに非常に小さな消費電力で長時間稼働できる特徴を持った通信規格。BluetoothやWi-Fiと比べ、LPWAなら広域・遠距離での通信を実現できる。

IoT通信における長距離無線技術

5G

特　長

超高速・大容量・超低遅延・同時多接続

5Gの特徴は、「高速・大容量でのデータ送受信」「超低遅延の通信品質」「同時に多数接続可能な安定性」。
５Ｇの普及により、ネットワークの通信量がますます増大する。

水晶デバイスに求められている市場ニーズ

音叉型水晶振動子

低消費電力　高精度　小型化　高信頼性　高周波

KoTカット水晶デバイス

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

事業別の主たる戦略と現状認識

新規事業 RE-ACCELERATION

KoTカット水晶デバイス

主たる戦略
新素子デバイスの量産化技術の確立

現状認識

- 海外からの引き合いが強い
- 認知度向上の必要性

新規事業は将来のコア事業創出を、構造改革事業は構造改善でキャッシュ創出を目指す

構造改革事業 RE-START

ATカット水晶デバイス

主たる戦略
ATカット水晶振動子の収益力の強化

現状認識

- 製品のコモディティ化による厳しい市場環境
- 生産規模が小さく、スケールメリットが得られない

コア事業 EXPANSION

音叉型水晶デバイス

主たる戦略
音叉型水晶振動子の圧倒的シェアの獲得・維持

現状認識

- 在庫調整の長期化、中国経済の不振に伴う受注の減速
- 資産回転率低下

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

コア事業と新規事業の両輪で持続的な成長と高付加価値の実現を目指す

事業戦略

音叉型水晶振動子の圧倒的シェアの獲得・維持

ATカット水晶振動子の収益力の強化

成長市場の深耕及び開拓

Focus

IoTデバイス / 医療 / 車載

製品力の向上

Focus

小型水晶デバイス

TFX-05X

コア・構造改革事業

（音叉型・ATカット水晶デバイス）

持続的な成長と高付加価値の実現

事業戦略

新素子デバイスの量産化技術の確立

時流に合わせた開発スピード

Focus

KoTカット水晶デバイス

KCRO-1409

マーケティング力の強化

Focus

製品認知度の向上、

需要予測に基づいた

販売戦略、生産体制の最適化

新規事業

（KoTカット水晶デバイス）

資本コストを意識した経営資本の最適化

事業戦略

持続可能な経営基盤の確立・強化

CSR・サステナビリティ体制の構築及び推進

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

製品力×販売力×ブランド力で企業価値向上を実現する

成長市場の深耕及び開拓

☞ 販売力の強化（商社等の活用、リファレンス活動の強化など）

IoTデバイスはスマートシティや農業など、多岐にわたる分野で活用されており、これまで当社と親和性のない企業も多く存在するため、代理店やリファレンス活動などにより、効率的に優良なリードを獲得し、販売拡大につなげていく。

☞ 車載関連市場への拡販を模索（スケールメリットの享受）

成長市場である車載関連市場への拡販活動を模索し、スケールメリットによる収益増加を目指す。

☞ プロモーション活動の強化（グローバル認知度の向上）

海外webサイトのリニューアルや営業と開発部門が連携した海外視察・プロモーション活動などを強化し、グローバル認知度を向上させ、販売拡大につなげる。

製品力の向上

☞ 製品のバリエーション（機能・性能）を拡充し、多様なニーズに応える

最適なプロダクトミックスとなるように製品のバリエーションを拡充し、利益の最大化を図る。

☞ MDSを進化させ、（品質・価格競争力等）製品力の向上を図り、次世代の成長ドライバー製品を開発・改良する

音叉型
水晶振動子
TFX-05X

次世代の小型化へのキーテクノロジーであるMDS（金属間直接接合）をATカット振動子に採用し、更なる小型化を追求し、収益力の向上を図る。

金属間直接接合（MDS）

３枚の水晶ウェハに金属層（金・クロム等）を形成し、真空中で熱と圧力を加えることによって起こる金属間の拡散を利用して水晶ウェハ同士を貼り合わせる先端技術。

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

開発スピードを加速させ、マーケティングに裏付けされた戦略、生産体制で企業価値向上を実現する

時流に合わせた開発スピード

☞ **開発スピードアップ**（開発ポートフォリオによる選択）

研究開発を効率的かつ的確に進めるため、時流に合わせたリソース配分とプライオリティ付けを行っていく。

マーケティング力の強化

☞ **製品認知度の向上と需要予測に基づいた販売戦略、生産体制の最適化**

マーケティング力の強化により、製品の認知度アップを図るとともに、需要予測に基づいた販売戦略、生産体制を最適化し、利益の最大化を図る。

KoTカット OPAW水晶デバイス

KoTカット
OPAW水晶発振器
KCRO-1409

特　長
新カット角「KoTカット®」を使用したOPAW® 発振器
ATカット発振器を上回る周波数温度特性
新特許技術により500 MHz～1000 MHz を実現
優れた位相雑音性能　→ -140 dBc/Hz @10 kHz offset
世界最高クラスの良好なRMSジッタ
　5フェムト秒(SPXO) , 7フェムト秒(VCXO) typ.値

● 高周波超低ジッタ発振器の市場

高精度な時間基準　**システムの安定性向上**　**広範囲な応用分野**

- 通信関係のインフラ
- 高精度計測の測定用基準クロック
- 高精細画像のインターフェイス
- 高速信号系の通信網

（直近のトピックス / 2023.9）

米国への技術説明及び商談の機会

商社、ICメーカーなど先端企業数社に訪問。強力な引き合いや商談もあり。

多数サンプル要求　新規案件化　新規プロジェクト

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

経営基盤の強化を図り、企業価値向上を実現する

資本コストを意識した経営資本の最適化

☞ 財務体質の健全性強化（収益の改善とバランスシートの改善）

利益の最大化と同時に資産構成の適正化、圧縮も進め、財務体質の健全化を進める。
獲得したキャッシュは資本効率・収益性を意識した投資と株主還元にバランス良く充当する。

（9月20日プレスリリース）
連結子会社であるRiver Electronics (Ipoh) Sdn. Bhd.の解散及び清算手続きを開始

解散及び清算の理由
グループの主力事業が抵抗器から水晶製品へと変化した現在、同社がおかれた事業環境において収益性やグループの経営資源の最適配分化と効率化について検討した結果、解散、清算を決定

解散及び清算による損益への影響
連結業績への影響は精査中

CSR・サステナビリティ体制の構築及び推進

☞ 社会的課題解決に向けた積極的な取り組み

長期経営ビジョン「革新的技術を用いた最適価値の電子デバイスを世界に発信し、人々のくらしと生活環境の向上に貢献する」ことの実現やSDGsへの貢献のため、特定した10のマテリアリティの目標達成に向けて活動中。

★ 2023年度省エネ大賞（最終審査待） 青森リバーテクノ株式会社（本社）
「純水用地下水とチラー冷却水の熱交換による灯油使用量・電力使用量削減」

設備から出た循環水をチラーで冷まして設備に戻す

地下水をボイラーで加温し、純水装置に供給する

熱交換の実施により、ボイラー灯油使用量とチラー電力使用量の同時削減が可能

平賀工場においても横展開

Copyright (C) RIVER ELETEC CORPORATION All rights Reserved

RIVER
Connecting to the Future
リバーエレテック株式会社

本資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などの記載は、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますので、これらの業績見通しに過度に依存されないようお願いいたします 。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、為替変動、当社の事業領域に関連する技術革新や需要変動、当社の開発・生産能力などが含まれます。
ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。